

瀋陽駐在員事務所



人民元ファンド登場

7月23日、日本大手ベンチャーキャピタル「日本アジア投資株式会社（JAIC）」と「瀋陽万潤新城投資管理有限公司」との間で、「万亜（瀋陽）創業投資基金」設立に向けた基本合意調印式がおこなわれた。調印式には、陳海波市長、楊亜洲副市長、黄凱副市長ら市幹部が出席し、同ファンドに対する期待の大きさをうかがわせた。

同ファンドは、事業拡大を企図する中国企業、対中ビジネス拡大を目指す日本企業を対象とした人民元建のファンドであり、中国東北地方では初の試み。「日本アジア投資株式会社（JAIC）」は、本年4月に瀋陽支社を設立して、同ファンド設立の準備を進めてきた。著しい経済成長を続ける瀋陽における新たな資金調達手段として、金融界、経済界から注目が集まっている。（JAIC ホームページ：<http://www.jaic-vcco.jp>）

正司 毅

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

ビールの美味しい季節

札幌ではビアガーデンが始まりました。北京は今年は雨が大変多く蒸し暑い日々が続いていますので、いつも以上にビールが美味しく感じる今日この頃です。

その様な中、北京にいる日本人駐在員はあの手この手の飲み会を開き、肩身の狭い外国で日々の疲れを癒しています。代表的なのは「都道府県人会」です。我が北海道人会は今現在会員約110名であり、2ヶ月に1回集まっています。都道府県人会の中でも大規模で有名であり、小職はその会の幹事をしております。その他にも東京人会、横浜市民の会、福岡県人会等が大規模で有名です。その次に来るのが大学OBの集まりです。早稲田大学出身の人の会「稲門会」は会員100名を越えており、毎月集まっています。北海道大学の会もあります。

面白い会もあります。先日小職が参加したのは1979年生まれ会の「羊の会」でした。羊年生まれという事で、羊の会です。乾杯の際の掛け声は「めえ〜」。刺激的です。そして「血液型別の会」というものもあります。各血液型がそれぞれ集まり飲んでいきます。たまに合同で論争を繰り広げている様です。中国北方の強い酒「白酒」の会「白酒会」、バブル世代が集まる「バブルの会」、金融機関に勤める比較的若手が集まる「若手金融マンの会」等々数え上げればきりがありません。この様な会に参加し、人脈を広げるのも海外駐在員の重要な一面だと小職は考えています。

中島 康成

ユジノサハリンスク駐在員事務所



初めての海外赴任で・・・PART III

このテーマも今回で3回目です。前は公共バスの話をしたので、今回はタクシーの話をしたいと思います。

ロシアのタクシーは、走行メーターが無く、事前に運転手と料金を交渉します。こうした制度は日本人である私には全く馴染みが無く、かなりの抵抗感があります。そもそもロシア語が話せないので交渉自体出来ませんが。しかし、今説明したタクシーは、道を流しているタクシーのことです。我々が普段利用するタクシーは、会社がいつも利用しているタクシーかホテルと契約しているタクシーなら、行き先と場所を予め電話で告げてから予約し、その段階で料金も提示されるので安心して普段利用しています。

私のタクシーの経験談をお話しましょう。

その日はホテルのレストランで会合（一次会）があり、二次会（ホテル内のバー）にも出席したため、時間が遅くなり、フロントにタクシーを頼み、帰宅することにしました。待つこと15分程度で、係員に案内され、タクシーの後部座席のドアを開けてもらい乗車。ロシアのタクシーは白タクが多く（約半数）、正規のタクシーかどうかは判断出来ません。車体にタクシーと書いてあるか、車上にタクシーの塔がついているものは正規のタクシーなんだろうか？という程度です。でも、今回私が乗ったタクシーの色はホワイトでRV車。タクシーの表示も塔も無し。ホテルで配車してもらったので安心して乗車したのも束の間。動き出した瞬間に助手席からヂェーヴァチカ（若い女性）がひょっこり顔を出し「ハロー」と声を掛けられ、思わず「えっ！何で・・・？」酔いも一気に醒め、ちゃんと自宅に帰れるだろうかと不安が頭をよぎったが……。無事に到着。恐らくデート中にホテルから呼び出されたのか？あるいは仕事中にデートしていたのか？翌日、会社のロシア人スタッフに確認したところ、ロシアでは良くある話とのこと（日本では考えられませんが）。

加えて、運転は非常に粗いです。一般道路でも空いていれば平気で100キロ以上はスピードを出します。最近はまだ慣れましたがフロントガラスが割れていても全くお構い無しです。こんな管理状況なので、恐らく、搭乗者の保険も掛かっていないので、もしものことがあっても何の保証も無いはずで

いわゆるこれがロシアです。しかし、ロシアのタクシー制度は渋滞していても日本とは違い料金は上がりず、気を使って遠回りして少しでも早く目的地に到着してくれるなど、悪くない制度のようにも思えます。これもまたロシアと言えるでしょう。

三上 訓人